

様式3 まとめ(自己評価および学校関係者評価)

坂戸市学校評価システム

## 令和4年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立桜中学校
実施日	令和5年2月13日

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	○「朝鑑賞(毎週火曜日)」「授業研究(月1回)」「タブレット端末を授業に積極的に活用」が本校の特色となっている。 ●特色の取り組みの反面忙しさを軽減を検討する必要がある。 【来年度に向けての学校の考え】 →来年度は授業研究を月1回の年間12回から10回に減らす。 →教員同士気兼ねなく普段の授業を見学できるようにしていく。 →各教科・領域の年間指導計画を見直し、より適切なものとする(現段階で持久走記録会の廃止、2学期の三者面談(1・2年生)は家庭で三者か二者の選択制とした)。 →2学期から朝の打ち合わせを木曜なしにしたことで職員にゆとりが生まれたので、来年度も継続する。	A	・朝鑑賞、学びあい、タブレット端末の授業への積極的な活用などの特色を評価する。 ・「朝鑑賞」という他校にはない取組を行っていること。そこで生徒たちが自分の考え・意見を自由に述べられている。それが他の授業への取組姿勢や学校生活に活かされている(自信につながっている)ところがとても素晴らしい。感性を豊かにするためにも、今後も是非取り組んでほしい。 ・生徒目線の学校運営が行われており、校長、教頭の方針について、学校職員が理解している。 ・詰め込みすぎずに無理なく計画を精選して行ってほしい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	○生徒は実際の地震の際に、身を守る行動が取れている。 ●災害・事故等で避難場所となることを想定した職員研修はできていなかった。 【来年度に向けての学校の考え】 →緊急を要すること、全体に関わることは職員集会で報告する。後で情報共有したほうが良いものは校務システムに書き込み共有する。 →危機管理マニュアルの概要版を、職員室に掲示し意識を高める。	B	・定期的な避難訓練の実施及び事故時の報・連・相がしっかりできていることを評価する。危機管理マニュアル及び緊急連絡体制の整備を評価する。 ・災害・事故等での避難場所となることを想定した訓練、研修は行うべきである。 ・定期的に訓練を実施し、生徒たちにとるべき行動が定着していることは素晴らしい。 ・災害時、休日や放課後ということもあるので、マメールでの情報共有と安否確認システムなども今後検討してほしい。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	○退校時間の設定、会議時間の短縮などの取組は進んだ。 ●業務量の多さに負担を感じている職員が多い。働き方改革の推進をより進めていく必要がある。 【来年度に向けての学校の考え】 →通知表の所見は、生徒への励ましの観点から継続実施する。 →月に半日の年休取得を目指す。	B	・退校時間の設定、会議時間の短縮などの取組を評価する。ただし業務量が多いとの意見があるので、今後の働き方改革の推進を期待する。 ・勤務体制の改善を図ることは大変重要である。担任を持っていたり、部活動を担当していたりするとそれだけで年休の取得が難しくなるので、配慮が必要である。 ・削減できる業務を他校での例を見て取り入れ実施してほしい。 ・教員の体調や精神面での無理のない管理が必要である。保護者の理解も重要だと思う。教員にも家庭があり子供もいて子育てがあるから、教員も保護者の一人である。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 (市共通項目)	A	○授業研究が指導力向上に役立っている。 ●基礎学力が身につけていない生徒への指導は検討が必要。 【来年度に向けての学校の考え】 →外部講師の指導を受け、大間で勝負する授業を実施していく。 →基礎学力が身につけていない生徒を減らすために小中連携を推進していく。	A	・積極的な授業研究、研究協議を評価する。 ・研修部長が毎週研修部会を開いている。学び合いの意識が大変に高い。 ・教員同士が授業をお互いに見合える環境が作られている。 ・基礎学力が身につけていない生徒に対して地域人材の活用は必要だと考える。 ・対話形式の授業が良好に行われており、授業を参観していても楽しいと感じる。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	○道徳授業のローテーション実施は有効だった。 【来年度に向けての学校の考え】 →総合的な学習の時間や特別活動の時間で年間指導計画に組み込むなどして人間関係づくりプログラムを実施していく。	A	・ローテーション道徳授業の積極的な推進を評価する。 ・教員が豊かな心をもって授業を行うから、豊かな心、豊かな環境の中で豊かな心を育む授業が成立しているのだと思う。 ・道徳の授業を楽しみにしている生徒がいるのはいい傾向である。 ・ローテーション授業は良い。いろいろな経験則からの話を聞いてどう感じ、考えることをして心を育てていく。ぜひ続けてほしい。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。 (市共通項目)	B	○生徒は落ち着いて生活し、授業に取り組むことができている。 ●個別の課題(挨拶、忘れ物など)のある生徒への指導の仕方を検討する必要がある。 【来年度に向けての学校の考え】 →教員から挨拶をしていくことを継続する。 →忘れ物の確認を丁寧に行う。 →宿題の内容の精選をし、取り組む姿勢を定着させる。 →生徒手帳に載っているきまり(校則)、タブレット・スマホの使い方のきまりなど、生徒会発信で議論をしていく機運を作っていく。	A	・落ち着いた態度で生徒が授業に取り組んでいることを評価する。 ・挨拶、忘れ物については改善が必要と考える。 ・生徒の挨拶は比較的良くできている。基本的な生活ができれば、生活態度や学習態度も良くなっていくと考えられる。 ・授業を参観していると、時折、教員からの楽しい問いかけ、話の仕方に笑いがこぼれる等とても良い雰囲気の良い授業を見られた。 ・自分の考えを伝えることの大切さを伝え、メリハリのある授業進行を継続して欲しい。 ・挨拶は社会で大事なことと気付くように引き続き声かけしてほしい。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 (市共通項目)	B	○管理職からの不祥事根絶のアナウンスは意識向上に役立っている。 【来年度に向けての学校の考え】 →生徒が怖いと思ったり、納得できないと思ったりすることがないように常に冷静に対応していく。	A	・倫理確立委員会の定期的な開催、不祥事根絶に向けて教頭が日常で指導(新聞記事紹介)することによる職員の意識浸透を評価する。 ・不祥事防止のためには、繰り返し事例をもとに全職員で研修する必要がある。 ・部活の練習試合に自転車を使用し、往復時の生徒が交通ルールを守り、マナーも良かった。指導されていることがよく分かった。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	B	○概ね生徒に寄り添って対応できている。 ●生徒とは節度を持って、言葉遣いや行動に特に気をつける。 【来年度に向けての学校の考え】 →生徒の様子をしっかり見守り、問題が起こる前に生徒に声をかけ、相談に乗る。 →生徒の自己指導能力(自己理解、自己の目標設定、自己で行動を判断し実行する力)の育成を推進する。	B	・生徒に親身になり、あたたかい寄り添った対応を評価する。 ・登校することや教室に入ることが困難な生徒に対しての丁寧な対応を評価する。 ・生徒一人ひとりに関する情報の交換は必要に応じて細かにする必要はある。 ・職員言葉遣いが丁寧で、優しさのある対応が生徒達にも伝わっていると思う。 ・問題が起こる前の対応には限界があるので、教員、生徒、保護者が連携を密にする必要がある。 ・一人ひとりの個性を尊重していい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	○特別支援学級の対応、就学支援の体制は概ね良い。 ●通常学級に在籍している特性のある生徒の指導について研究が必要である。 【来年度に向けての学校の考え】 →夏休みに特別支援教育の研修の実施を検討する。	A	・特別支援学級と通常学級との交流を評価する。 ・保護者に対しての丁寧な対応を評価する。 ・特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担当の教職員を中心に、特別支援教育体制の充実が図られている。 ・特別支援教育に関する職員研修は是非実施してほしい。 ・幼稚園・保育園や小学校で発達障害の子供が増えていることを聞くと、これからの教育現場の大変さを感じる。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
環境	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	○環境の整備は良い。 ●校舎内外の片付けを進めていく必要がある。 【来年度に向けての学校の考え】 →掲示物がいつも新しいものとなるように委員会を活用する。 →廃棄備品を定期的に整理する。	A	・毎月の安全点検の定期的な実施を評価する。 ・使用しないものを積極的に廃棄していることを評価する。 ・学校生活の中では規律を守ること、特に、時間を守ることは大切である。 ・学校内の環境整備は学校応援団等をもっと活用し、地域全体で生活しやすい学校を作っていけるとよい。 ・危険個所への対応も迅速であり安心して生活できる環境である。たくさんさんの廃棄備品が出ると思うが整理を行ってほしい。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 (市共通項目)	B	○各種便りから学校の様子を知らせることができている。 ●授業参観、公開の機会がコロナ禍等のため減ってしまった。 【来年度に向けての学校の考え】 →来年度は、授業参観・公開の機会を学期に1回程度は計画していく。 →感染症の状況によってはオンライン授業参観の方法も検討する。	A	・ホームページ開設による定期的な情報更新を評価する。 ・学校だよりの地域への回覧、配付を評価する。 ・近隣の方々も学校の様子を知ることができるので、学校だよりの回覧を楽しみにしているとの声も聞いている。今後も、お願いする。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	○PTA、学校応援団と連携できた。総合的な学習の時間で地域人材を活用することもできた。 ●外部人材の活用をもっと推進する必要がある。 【来年度に向けての学校の考え】 →坂戸市内の企業や人材を活用するような進路学習も検討していく。 →来年度は学校応援団の年度当初顔合わせ会を実施し、学校応援団活動の活性化を図る。	B	・PTA、学校応援団等の連携による地域人材の活用を評価する。 ・感染症への対策もあり、なかなか地域人材の活用ができない状況であったことが残念なことである。今後は、地域人材の活用を積極的に行ってほしい。 ・コロナ禍において、やむを得ない状況があったが、できることを各組織が検討しながら、取り組んでいた。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 (市共通項目)	B	○小中連絡会は実施できた。 ●今後は各教科や生徒指導のつながりを強くできると良い。 【来年度に向けての学校の考え】 →本年度の体育科の出前授業のように、各教科で目に見える連携を図っていく。例：出前授業、基礎基本定着のための小中教科会議等 →生活のきまり、タブレットのきまりについて意見交換し、相互理解を進めていく。	B	・小中連絡会の実施を評価する。 ・小学生と中学生の更なる交流推進が必要である ・桜小、片柳小との三校による情報交換をしている。PTA連合会でも行事等の情報を共有できている。しかし、もっと交流を増やし北部三校の団結、活性化を期待する。